

重誓寺報

第43号 平成31年2月発行

浄土真宗 本願寺派 (西本願寺) 重誓寺
じゅうせいじ

大阪市旭区中宮2丁目4番19号
電話・FAX 06(6951)0090

毎年、年末には今年の世相を表す漢字が発表され、昨年は「災」という字でした。確かに昨年は地震や台風など災害の多い年であり、皆さんの記憶に残ったのでしょうか。災害が少ないと言われる大阪でもたくさんの爪痕を残し、未だ屋根にシートを被せてある家がまだまだ見られますが、お陰様で重誓寺の修復工事は無事終了致しました。しかし決して悪いことばかりではなかったはずです。オリンピックをはじめ、感動させられる出来事もたくさん有ったかと思えます。人はどうしても良い事より、悪い出来事の方が印象に残ってしまうようです。

私たちは当たり前のように日々過ごしており、その中では自分にとって良いことも、都合の悪いことにも必ず出会うこととなります。ずっと災害の遇わないとか、病気になることが難しいことなのです。そのことをきちんと受け止め、今生かされている命に感謝することが大切なことであります。

平成が終わり、新たな時代を迎える
本年、何事もお陰様の気持ちを持って
日々過ごすことができれば、良い年になるのではないのでしょうか。



法座のご案内

重誓寺では毎月、二十日

(三、九、十一月は二十日、二十一日)

法座が勤まります。

勤行約三十分、法話約一時間

椅子席でお参りいただけます。

常例法座

二月二十日(水) 午後二時

講師 平野区浄覚寺 巖水法乗師

春季永代経法要

三月二十日(水) 午後二時、七時

二十一日(木) 午後二時

講師 摂津市常願寺 味府弘子師

常例法座

四月二十日(土) 午後二時

講師 尼崎市浄専寺 藤岡良治師

親鸞聖人降誕会法要

五月二十日(月) 午後二時

講師 奈良宇陀市勝樂寺 高澤正文師

心に残った法話のお言葉

聞くという事は、仰せのままにすることです。救うぞという仏様の言葉をそのまま受け取るのが聴聞であります。

(九月 寺本正尚師)

人生の旅は始まっている、やがて終わる。どこに行くか、どこに帰るのか。

浄土に生まれて仏になると答えるのが浄土真宗です。

(十月 福田康正師)

私たちを支えてくださっている阿弥陀様への恩。今ここにはたらい下さっていることを受け止めることが大切なのです。

(十一月 高島幸博師)

いろんな困難に出会った時、知恵と力を仏様の言葉によって乗り越えて行くのです。愚痴の材料であったことが生かされてくるのです。

(十二月 中西昌弘師)

仏法を聞くお聴聞は、日頃の汗を流す命の洗濯です。浄土真宗の信心は聞くことです。

(一月 足利孝之師)

男女貴賤ことごとく

弥陀の名号称するに

行住座臥もえらばれず

時処諸縁もさわりなし

(高僧和讃 九四)

男でも女でも、持っている人でも貧しい人でも、阿弥陀様の名号を称えるのに、歩いていても、座っていても、伏して寝ている時も、どのような状況にあっても、分けへだてされる事はなく、いつでもどこでも、どんな困難な縁があっても何の障害もない

仏様の救いは、当然老若男女、また知識や貧富の差は全く関係ありません。誰にでも同じようにその光を差し向けてくださっているのです。

しかし今まで教義の中で男女を区別してきた経緯があります。私たち浄土真宗でも法名を付ける時、女性だけに釋尼〇〇と「尼」の字を入れてきました。男女平等であることは当然なことですし、今の時代男女の区別もこれまでの判断とは違ってきました。

本願寺ではすでに女性にも「尼」は付けなくなっており、一般寺院では当面それぞれの判断に任せるとしていました。重誓寺では以前の通り「尼」を付けておりました。が、この度、新元号となる五月から、基本付けないことにしたいと思えます。もちろんそれまでも、ご希望があれば付けないことも、以降でも付けることは可能です。



法名は本来、帰敬式を受け、生きていく間に頂くお釈迦様の弟子、仏教徒としての名前です。帰敬式は本願寺にて毎日受けることができます。

生きがい

「生きがい」という言葉を英語に訳すと？
近い言葉はあるそうなのですが、一言で表すのは難しく、**ikigai**（イキガイ）と、そのまま使われているそうです。



あるアメリカ人の起業家がこのようなグラフを描いたそうです。いかにも起業家らしく、仕事や金銭に傾きすぎた違和感があります。が、その後には、

「明日への希望より、今日を生きる意志」

と書かれています。

先のことばかりを追っているより、今どう生きるか見つめることが大切だと言うことだと思います。



本年の重誓寺落語会は、

五月十一日（土）

午後三時開演です。



先日来、私たち僧侶の服装である「僧衣」で運転することが話題になりました。そもそも一人の僧侶が違反キップを切られたことに始まり、本山やマスコミ、また全国の僧侶を巻き込む事態となりました。「僧衣で出来るもん」と題したパフォーマンスを披露する姿も映像で見られたかも知れません。

私たちは今まで、問題意識もなく運転してきましたし、特に危険と感じたこともありません。

結局、警察があまりの騒動に負けて取り下げたような形となりましたが、この際きちんとした規定をしていただきたいものです。

お参りの変更や相談など、ちょっとした連絡をメールでもお聞きします。お気軽にお問い合わせ下さい。ただし急ぐ場合や返事が無い時は必ず電話でお願いします。

重誓寺 E-mail juseiji@gmail.com (携帯)

TEL 06(6951)0090